opusdei.org

世界を股に掛けた生 涯

メキシコ生まれのアンヘル・ ミゲル・アイマルは、長年、 スペインのバルセロナに暮ら した後、4年前からスロバキ ア共和国の首都ブラチスラ ヴァでマーケティング・コ でマニケーションを学んでい ます。

2008/12/29

「私の家系は、代々旅行好き、冒険 好きなんです。父は25歳の時に、 母と一緒にメキシコに移住し、それました。私は生まれました。私をしたち兄弟は生まれるのことが、ないますが、ないでは、は、ないでは、からことのでは、からいまが、からでは、からいまが、からいまがでは、は、ないのでは、からいまがない。」

「スペインのサン・クガーにある フォイローという名のオプスき、そのセンターに通ってかれたとき、に やったいないかいです。私に です。私に です。私に です。 ない さいましている こと がらいました いっしょ から、 キューバでオプス・デイのセンターのディレクターが私に いるない でから、 でから、 でんで はない ました よい ない ました よい ない ました よい で おいました がら、 キューバでオプス・デイク

ンターを始めたいと望んでいました。カリブの国、葉巻の国のキューバです。でも、今、ヌメラリーが不足している場所はスロバキアだと教えられて、やはり緊張してしまいましたね。」

「よく考えてみれば、地球を一回らなれば、地球を一回らればないかけですよいですよいないかければなら口ががとからないですが、ででいいがないができまででは、でいかできまがいないができまがいないができまがいないができまがいかができます。」できます。」

「その後のことは皆さんにも想像できるでしょう。両親や兄弟たち、友達に話しましたよ。手続きを始め、 旅の準備に入りました。スロバキア の冬に備えることも忘れずにね。と にかく、これは冒険です。|

「私がブラチスラヴァに住むように なってから、家族は毎年、私と私の 友達に会いに来てくれます。昨年の 夏には、訪問のお返しをしました。 夏の終わりに、10人のスロバキア人 と一緒に、バルセロナとトレシウ ダーに行きました。当然のことにサ ン・クガーでは大歓迎されました。 両親や兄弟たちだけでなく、祖父母 や叔父や叔母たち、さらに、懐かし い友人たちが出迎えてくれました。 バジアンコという名のスロバキア人 は、飛行機でスーツケースを失くし てしまいました。私の兄弟フェラー ンは、ちょうど、バジアンコと体格 が同じだったので、そこに滞在して いた間、服を貸してくれました。私 の母は、スーツケースを失くした ショックを少しでも和らげようと、 バジアンコに何かと世話を焼いてく れました。母は、翌日にはバジアン

コの一番好きなアイスクリームを 知っていましたよ。しきりにそれを 勧めていましね。」

「バジアンコは、恩返しをしたいと 思い、その年の12月、私の家族を自 分の家へ招いてくれたのです。スロ バキアの冬はとても寒いんです。 しょっちゅう雪が降っています。で すから、この季節、スロバキアでは 床のカーペトを汚さないために、家 に入る時に靴を脱ぐ習慣がありま す。バジアンコの家を訪問する前 に、私はその習慣について家族に話 しました。すると、兄弟の一人は、 『本当!まるで日本人みたいじゃな いか』と、驚いてましたよ。この訪 問で一番愉快だったことは、スロバ キアの伝統的な焼酎での乾杯です。 兄弟のフェラーンは、まるで薬のリ ステリンのようだと顔をゆがめてま した。文化の違いですね。スペイン 人の大好きな生ハムは、スロバキア の人にとってはただの生肉ですよ。

妹がメキシコから届けてくれた激辛のお菓子は、スロバキア人には、火を吐くお菓子です。|

「私の経験によれば、どこに行っても、いつも家族的な雰囲気に出会います。いろんなタイプの友達がでしますが、どこにいても、優しなど、数地な人や温厚な人など、対したちと出会います。とはないである。これば、対したちを、とま、皆さんにも知って欲しいですね。」

「というわけで、神様に従って、どこへでも冒険旅行へ出かけることは、素晴らしいことです。スロバキアでは、『どこにいても素晴らしい場所。しかし、家が一番いい』と言う表現があります。これは、オプス・デイにおける私の人生を表しています。世界を股に掛けて旅をして

いても、	いつも自分の家にいるので
すから。]

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/shi-jie-wogu-nigua-ketasheng-ya/(2025/11/22)